



RI 会長テーマ

2016~2017 年度
大船渡西ロータリークラブ会報

七福人

会 長 藤原 太伸
副会長 前野 良夫
幹 事 浜田 浩誠



会長指針

チーム大船渡西で

ロータリーを楽しもう

．．． 例 会 記 録 ．．．

5月第3週例会 2017年 5月18日(木)

ソング : それでこそロータリー ボックス : 39,000円 (報告者 千田喜一郎会員)

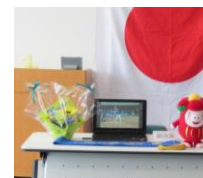
本日出席率 : 74.14% 前回修正後84.48% (メキャップ 14名) (報告者 新沼 敏宏会員)

★ 会長の時間 藤原太伸会長



会長の時間を務めさせていただきます。

皆さんご承知のとおり、会員の前野良夫会員が5月15日に、お亡くなりになりました。謹んでお悔やみ申し上げます。57歳と言うまだ若い歳での他界は、皆様にとってもショックが多いと思います。



今後日程は、今日 18日 18時から 花祭苑にて お通夜

明日 19日 11時から 花祭苑にて お葬儀

となっております。最後のお別れとなります。会員の皆様宜しくお願い致します。

会員皆様におかれましてはご自身の健康状態をチェックして頂き、今いっそう健康管理に努めて頂き、故前野良夫会員の分までこれからロータリー活動でのご活躍を、宜しくお願い致します。

話は変わりますが、日本のロータリー100周年委員会設立趣意書と言う文章が東京ロータリークラブ様から届いていますので、皆様にお話しさせて頂きたいと思います。

・日本のロータリー100周年委員会設立趣意書

2020年10月20日は、東京ロータリークラブが設立されてから100周年を迎えます。即ち、日本にロータリーが誕生して100周年という記念すべき節目の年とります。

日本のロータリアンにとって、未来志向のロータリー像を語り合う絶好の機会ではないでしょうか。勿論、ロータリーの基本理念や日本のロータリアンが育ててきた伝統的価値観を再確認することを怠ってはなりません。その語らいの中から日本のロータリー奉仕の新世紀に相応しいビジョンが描かれることを願っております。当100周年委員会の設置目的は、2020年100周年を迎える日本のロータリーに相応しい事業展開をすることによって、連帯感を育みロータリーの基盤を強化することにあります。ロータリーの主役であります各々のロータリークラブが活性化され、魅力的なクラブとなることを願っております。

その目的達成のために次の事項に取り組みます。

- (1) 奉仕の新世紀に向け、日本らしいビジョンの策定に関すること。
- (2) 100周年をどのように迎え祝うかに関すること。
- (3) 東京オリンピック・パラリンピックにロータリーがどのように関わることが出来るかに関すること。
- (4) 日本のロータリーに存在する組織の連携強化に関すること。

当100周年委員会の下に、上記事項を検討し推進するため三つの特別委員会「ビジョン策定特別委員会」「記念式典等特別委員会」「組織連携特別委員会」を設置致しました。

日本のロータリーが、従来にも増して存在感と発信力を高め、世界のロータリアンと対話し協調体制を一層深められますよう、皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。日本のロータリー100周年をどのように迎えるか、それぞれの担当分野で検討を進めています。

との内容で東京ロータリークラブ様からでした。ご報告でした。 以上。

6月8日横浜南ロータリークラブより9名がメーキャップ予定です。「Rの友」の記事を読み来訪を決めたとのこと。多くの皆様の例会出席をお願いいたします。

◆◆◆ 本日のプログラム ◆◆◆

フリーアワー : 志田宏美会員卓話

・ ・ 岩手県南運輸株式会社の歴史を辿ってみました ・ ・



弊社は昭和25年(1950年)気仙貨物自動車として誕生しました。初代の志田達夫は3歳の時に父親を亡くし女手一つで育てられ、赤崎一貧乏な家庭だといわれていたそうです。母親に少しでも楽をさせてやりたいという思いから、21歳の時に会社設立を目指しましたが、誰一人として経済的に支援をしてくれる人はいませんでした。そんな時唯一手を差し伸べてくださったのが、橋爪商事の宮澤才典さんです。

バスを乗り継ぎ1泊2日で盛岡のいすゞ自動車に出向き頭金を払ってダンプトラック1台を購入することができました。早朝から日没まで盛川の砂や砂利をスコップで積み工事現場まで往復する仕事の原点でございます。



毎月決まった日に宮澤さんのもとへ返済に行き、そのお金を運転資金としてお借りしてくるという状況でしたが、まじめな仕事ぶりから信頼していただけるようになり、徐々に仕事も紹介してもらえるようになりました。

昭和39年(1964年)岩手県南運輸株式会社と商号変更し、2年後に小野田セメント(現在の太平洋セメント株式会社)のセメント運搬を開始致しました。今年で51年目になります。

その後1977年に産業廃棄物収集運搬、2年後に一般廃棄物収集運搬の事業に参入しました。

昭和59年(1984年)全国引越し専門協同組合に加盟し、引越し業を開始しました。これは運送業が入札の関係で仕事が薄くなる3月下旬から5月の時期にちょうど仕事のピークを迎える引越し業に参入することで年間の仕事量のバランスを保つことが目的です。

平成14年(2002年)住田営業所を開設し、ダンプ・冷凍・家畜部門の車両基地といたしました。

平成19年(2007年)には全国トラック協会から安全性優良事業所に認定されました。これは、交通安全対策への取り組みなど、一定の基準をクリアした事業所が評価され公表されるものです。全国の30%の事業所が認定されています。大きなブルーのGマークを張っている車両が目印です。

そして2011年の東日本大震災です。赤崎の本社に待機していた約50台の車両が水没しました。24時間以内に海水を洗い流せば復活のチャンスはありましたが、断水が続きほとんどの車両が鉄くず同然となってしまいました。従業員全員の無事を確認できたのが不幸中の幸いでした。

先の見えない中、廃業も覚悟した時期でもありました。混沌とした中、大船渡市からがれき撤去の要請がありました。全国から中古ダンプを買い集めました。その時ダンプ市場が異常な値上がりを見せ、倉庫の奥に眠っていたであろう怪しい車両に出さえ高額な値がつけられていました。何とかしなければいけないという力強い不思議なエネルギーに突き動かされて戦っていた日々でした。

現在は震災前に比べ、車両台数も従業員数も倍近くになりました。苦しい時期を共に乗り越えてきた大家族です。それぞれの健康問題に加え、両親の介護・子供の教育・育児など一人一人の生活環境に寄り添いながら、血のかよった会社経営を目指していきたいと思っています。



例会終了後 2名ではぐくみの像の清掃。



盛岡R.C様より寄贈のさくらへ銘盤石設置が完了しました。

